

一般社団法人

千葉県言語聴覚士会ニュース



NO. 46 2014年12月14日

目 次

会長から	1	臨床こぼれ話	10
秋季都道府県士会協議会	3	匠の技	11
学術局から	4	各委員会・作業部会から	13
職能部から	6	事務局から	14
ひとくちコラム	8	理事会・委員会等議事録	17
施設紹介	9		

◇ 会長から ◇

第5次千葉県障害者計画の策定作業がすすんでいます

会長 吉田 浩滋

今、第5次障害者計画の策定作業がすすみ、やっと素案ができました。策定委員は障害当事者及び、障害者の保護者会の代表、行政の担当課長、権利擁護を行っている社会福祉士や弁護士、特別支援学校や特別支援学級設置校の校長先生、千葉県作業療法士会の会長等、多くの方々に構成されております。そしていくつもの分科会に分かれ、「入所施設の定員数を減らすことは可能なのだろうか」「累犯障害者の対応は十分なのだろうか」といった議論を続けてきました。

そのような中で、今回素案に、かねてからの要望であった「会話パートナー」の書き込みと、発達障害の説明に「吃音を含む」と書き加えることができました。

具体的には会話パートナーについては、「…従来の意思疎通支援事業に加えて、失語症の人のための会話パートナーや視覚障害のある人の日常生活に密着した代筆・代読者等の、新たなニーズに対応した意思疎通支援についても検討を行います。」となっています。

当然、これは素案ですので、変更される可能性はありますが、これまでの手話や要約筆記が中心であった意思疎通事業の範疇に、多彩な障害が想定されるようになったことは大きな変化であると感じております。

また吃音については、平成17年に厚労省が提示したICD-10の中で、「心理的発達の障害」及び「小児・児童期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害」が発達障害と記されており、その中にトゥレット症候群や吃音症が挙げられておりました。また、平成26年7月3日には、国立リハビリテーションセンターのHPにも「吃音は発達障害」という解説が行われました。今回千葉県でも「発達障害に吃音を含む」と書き加えられ、吃音にも一定の場所が確保されたことは画期的なことであり、これを機に、この記載を活かす取り組みを行っていくことが望まれると考えております。

一方、リハ職の扱いについては厳しい結果が提示されました。「人材の育成と確保」のなかで、人口10万人当たりでは医師、看護師ともに全国第45位となり、人材が不足していると記されております。しかし、リハ職については「リハビリスタッフの充実やコーディネートする人材の育成が必要」と記され、人材の不足については一切触れられておりません。

ここを、一方は数のうえで問題がありますが、他方は質に問題があります、と深読みするのは私だけでしょうか。別の調査機関の資料ではリハ職も10万人当たりでみると全国で第40位となっており、リハ職の不足があることは明らかです。東葛地区では小児の言語聴覚士の確保のため、非常勤職員の時給が上昇しております。また当会の介護保険委員会で実施したアンケート調査の結果では、募集しても言語聴覚士を確保することが困難なため、言語聴覚士の募集そのものを断念しているという回答が複数あったことも事実です。今回の素案に反映できるか否かは不透明な状況ですが、引き続きリハ職不足の解消に向け当県士会では県に働きかけを継続して行きたいと考えております。

今後は、会員の皆様にもお願いが一つあります。この第5次障害者計画は平成27年1月には千葉県庁のHPで公表され、計画素案に対するパブリックコメントが実施されます。出来るだけ多くの会員のみなさまには素案に目を通していただき、改善点など建設的な意見を寄せていただきたいと、切に望んでおります。

法人化したことで、私たちはいろいろな責任を果たすことが求められておりますが、この計画がより良いものになることも、その責任を果たすことになると考えております。

これは本号の他の頁でも扱ってはおりますが、今、国際医療福祉大学が県内に言語聴覚士の養成コースの設置準備をすすめております。これによって首都圏における言語聴覚士養成校ゼロという千葉県の現状は改善されます。県士会としても、このことは歓迎しておりますし、今後は実習先としての県士会員の所属先の協力も必要になると予想しています。是非とも、ここでも県士会員の協力をお願い申し上げる次第です。



平成26年度秋期都道府県士会協議会報告

副会長 岩本 明子

11月8日に朝日生命大手町ビルで行われました都道府県士会協議会について、報告いたします。はじめに深浦会長から、①来春の介護報酬改定に対する要望書をPT・OT・STの三協会合同で厚生労働省に提出したこと、②厚生労働省の「高齢者の地域におけるリハビリテーションの新たな在り方検討会」における議論の概要に併せて、生活期リハにおいては従来の機能訓練中心のトレーニングから“参加”に焦点をあてたりハビリの提供が必要であること、③代議員選挙が行われていることなどについて報告がありました。

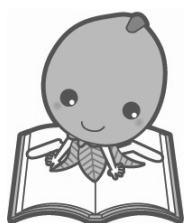
続いて、介護保険部と医療保険部から、厚生労働省に説得力のある働きかけを行っていくには、その根拠となるデータを示すことが不可欠であり、県士会に対し、県内で行われているSTの地域活動に関する情報の提供や、医療保険に関するアンケート調査への協力等の依頼がありました。また、地域包括ケアシステムの構築や、介護予防支援事業への参画では、市町村との連携が求められていますが、協会ではSTが行う介護予防市町村支援事業に関するリーフレットを作成中であり、それらを活用して各市町村へSTの専門性をアピールして欲しいとのことでした。

また代議員選挙との関連では、来年度からは代議員による社員総会での審議に加え、この「都道府県士会協議会」を「県士会会長会議」と名称変更し、全国の県士会会長が協会事業に提言・提案を行う場とする方針となりました。

そして最後に全国の県士会からの近況報告がなされました。法人化、言語聴覚の日の取り組み、PT・OT・ST合同での研修会開催や災害リハ、地域ケア会議等の取り組みが増えていること、教育現場へのSTの派遣、中高生へのSTの職業紹介や職場体験の実施など、県士会活動がますます多方面に活発化しているなどプラスの側面がある一方で、県士会への入会や研修会への参加が減少傾向であり、役員の担い手がいらないなどのマイナスの側面も全国共通にあるようです。千葉県士会も、時勢に敏感に、会員の皆様に、活動を盛り上げていきましょう。

さて、「医療保険に関するアンケート」は、日本言語聴覚士協会のHPに調査票があります

(<http://www.jaslht.or.jp/>)。500施設のデータ収集が目標とのことです。我々の回答が、次の診療報酬改定の要望検討の大きな力になります。まずは一会員としてできることを、やってみませんか？



◇ 学術局から ◇

学術局 木村 佐知子、酒井 譲

1. 平成26年度第3回研修会のお知らせ

小児の症例検討会を開催いたします。講師に斉藤公人先生をお招きし、症例へのご助言と臨床上の具体的な訓練プログラムや経過に応じた評価のポイントなどについて、お話いただきます。症例検討会後には、皆様の日々の臨床上の疑問点などを相談し合い、よりよい方法を模索するための情報交換会も行います。

会員の皆様はもちろん、会員外の方もお問い合わせの上お申込下さい。

*日時：平成27年1月18日（日） 13時00分～16時30分

*会場：順天堂大学医学部附属浦安病院 外来棟3階講堂

*内容：

I. 症例検討会

<症例報告> [13:00～14:00]

「双胎の表出性言語発達遅滞児の訓練経過について～各児の比較検討を通して～」

発表者：旭中央病院 言語聴覚士 金屋 麻衣 先生

言語聴覚士 宇井 円 先生

<助言・講演> [14:15～15:45]

「PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）について」

講師：千葉市療育センター療育相談所 言語聴覚士 斉藤 公人 先生

II. 情報交換会 [16:00～16:30]

* 申し込み方法：詳しくは同封の申込書をご覧ください。

2. 第2回研修会報告

平成26年9月21日（日）に東京女子医科大学八千代医療センターで第2回研修会を開催しました。今回は、講師に中野正剛先生と治田寛之先生をお迎えし、認知症についてご講演いただきました。参加者は83名（会員50名、会員外32名、学生1名）でした。研修会の概要と、アンケート結果の一部をご紹介します。

研修会の概要

演題：「認知症の専門知識～言語聴覚士が知っておくべき最新知見～」

講師：医療法人相生会認知症センター 東邦大学医学部客員教授 中野正剛先生

概要：まず認知症を有する方は2012年時点で3079万人中462万人と全体の15%もあり、軽度認知症（以下MCI）の方を合わせると862万人にもなるそうです。つまり、認知症は誰もが日常的に遭遇する疾患あるいは誰もがなりうる疾患になってきているとの事でした。そして、認知症についての考え方の基本はご本人が「その人らしく」安心して生活できるようにすることであり、自分が認知症になった時、受けたい医療・ケアを考え日々の業務にあたる必要があるということをご講義頂きました。

次に認知症の種類（アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、血管性認知症、前頭側頭葉型認知症）からアルツハイマー型、レビー小体型認知症またMC I の病態・特徴についてご講義頂きました。これまでは、認知症患者は「なったらおしまい」、「絶望的」、「負担になる存在」などとの考え方がありましたが、誰もがなりうる疾患になってきており、これからは、発症したことを絶望するだけではなく、生活のしづらさを支援してもらうことで、これからの人生をどう生きるかを考えていくことが重要との事でした。

演題：「認知症の評価」

講師：東邦大学医療センター佐倉病院リハビリテーション部 治田寛之先生

概要：まず、東邦大学医療センター佐倉病院の物忘れ外来の概要や流れ、その中でSTが関わることの意義についてご講義頂きました。検査に訪れる患者様の心理は様々であり、検査の際は安心感と緊張感のある雰囲気づくり、検査のモチベーションを下げない言葉かけなどの点を意識されているとの事でした。次に検査・評価についてご講義頂きました。認知症のスクリーニングではMC I や若年性アルツハイマー型認知症（初期）など偽陽性を見逃さない検査をする必要があるとの事でした。認知症の評価には中核症状の評価（神経心理学的検査）と周辺症状の評価（行動評価、家族への質問、アルツハイマー病行動病理学尺度など）があり、リハビリの視点で評価することで患者様の得意な点、苦手な点を見極め、意欲向上、家族支援、情緒面の安定を図る為の手助けをするとの事でした。また、検査の際は教育歴、職業歴、生育歴を考慮しつつ必ず下位検査をみて評価することが重要であるとの事でした。次に、検査バッテリーの説明・紹介、各疾患の特徴を症例の検査データの分析などを交えてわかりやすくご説明いただきました。

アンケート結果

①－1 研修会に参加して（回収：66名）

とても良かった：64名、普通：2名、未記入：1名

具体的に：

- ・歴史に沿って話を聞く機会があまりなかったので楽しく学ぶことができた。
- ・認知症と医学的な関係（薬など）を知ることができてよかった。
- ・アルツハイマー型認知症、前頭側頭葉型認知症について詳しく教えていただき勉強になった。時間があれば他の認知症についてももっと詳しく聞いてみたかった。
- ・認知症について概念から今後の展望まで、全体的な知識を得ることができた。

①－2 評価演習に参加して（回収：66名）

とてもよかった：53名、普通：9名、未記入：5名

具体的に：

- ・検査や評価に関して再確認できた。症例を通して、分析方法を知ることが出来参考になった。
- ・実際の臨床におけるイメージが湧いた。

②今後の研修会や当会の活動について、ご意見などがありましたらお書きください。

（以下の項目つき、回答を集計しました。）

形式：講演64名、症例発表17名、シンポジウム3名、グループワーク5名

相談会4名、領域ごとの研修会17名、その他1名

内容：失語症：42名、高次脳機能障害：48名、摂食・嚥下障害：44名、
吃音：5名、音声・構音障害：34名、言語発達障害：3名、聴覚障害：3名、認知症：30名、
職場の悩み相談：6名、子育てとの両立について：3名、復職について：8名、接遇やマナー等：
2名、その他：10名

具体的に：

- ・急性期での評価、治療など
- ・リー・シルバーマン法
- ・高次脳機能の評価について
- ・新人 or 若手の教育について
- ・社会的資源の制度、種類やその活用、年齢別・疾患別（脳疾患）復職・復学へのステップ、生活保護制度・介護保険制度と身体障害者手帳の用途など
- ・急性→回復→生活期の連携について

3. 学術局より

[研修会を終えて]

多くの皆様に学んでいただく機会となったことを嬉しく思っています。またアンケートでは、具体的に皆様からのご要望を抽出でき、今後の研修会の運営に生かしてまいります。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。これからも皆様の臨床の一助になれますよう願っております。

[研修会の症例発表者募集]

今年度の研修会での症例発表者を募集します。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、是非ご検討ください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。当会ホームページにお問い合わせください。

4. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「小児多職種合同勉強会」、「地域勉強会」をご参照の上ご参加ください。

◇ 職能部から ◇

理事 渡邊 裕貴

今、学校教育の中では、子どもたちが「生きる力」を身につけ、社会人として自立していくことができるようにキャリア教育の推進が重要な柱として位置づけられています。小中学校では、職業人の講演会の他に職業体験なども行われています。石橋尚基職能部局員の新八千代病院でも毎年市内中学生の職業体験を受け入れており、今年度は5～6月にかけて合計22名受け入れ、1) 言語聴覚士とは、2) 言語障害とは、3) 嚥下障害とは、ということを実技を交えて行っています。

会員の皆様の病院や施設でも小中学生の職業体験を受け入れたり、講演に出向いていただける先生方もいらっしゃると思います。まだまだ「言語聴覚士」の認知度は低いと思いますので、このような機会があった際には、これからの子どもたちに言語聴覚士の職業に興味を持ってもらえるよう、言語聴覚士の魅力を伝えていただければと思います。

今回は、そんな学校企画の中の1つで、「職業を語る会」に参加されました、言語リハビリ ミカタ船橋の山本 弘美先生のお話をご紹介します。

「職業を語る会」報告

言語リハビリ ミカタ船橋 山本 弘美

平成26年6月28日、高校1年生を対象とした「職業を語る会」が開催され、言語聴覚士（以下ST）の業務やその魅力等を発表、千葉県言語聴覚士会のリーフレットを配布させていただきました。講師は私の他、中学・高校生の保護者12名、職業は会社経営者、研究者、税理士、薬剤師などバラエティーに富んでいました。

講演内容は学校から指定されており、本会リーフレットや日本言語聴覚士協会のホームページを参考に、ST業務、言語障害や嚥下障害の説明、志望理由、進路選択のアドバイス等、質疑応答を含んで20分間の発表を行いました。「言語聴覚士を知っていますか？」と尋ねると、1名の女子生徒が挙手し、質疑応答では男子生徒から吃音についての質問がありました。



「職業を語る会」は、授業の一環として出席が義務付けられています。生徒たちの反応は実にわかりやすく、正直でした。興味がなければ下を向き、研鑽のために積極的に参加する研修会・講習会とは受講態度が異なりました。講演によっては、大半の生徒が下を向いており、講師のプレゼンテーション力が試されていることを実感しました。私はトップバッターゆえ、いささか緊張したものの、文字はまばらで画像や図を多用したパワーポイントが功を奏したか、下を向いている生徒は少なく、真剣なまなざしの生徒が多く見られました。講師を務められた保護者が「さすが、コミュニケーションのプロです。論理的でわかりやすかったですね。言語聴覚士に興味を持ちました。」と声を掛けてくださいました。

他の講演を聞いていると、業務内容、職業倫理、志望理由、年収、養成校の特徴等、さまざまな視点から話をされており、興味深く感じられました。印象的であったのが、薬剤師の猛烈アピールです。「最低年収は〇〇万円」と高収入の魅力を語り、「〇大学が入りやすい」等、具体的な養成校の名前まで挙げられていました。

会の終了後、進路指導部主任にあらためてSTについて説明をさせていただきました。大学進学実績をみると、言語聴覚学科への進学者はゼロです。生徒たちがST及び我々が関わる障害児者がもつ課題に対して関心を持ち、少しでも記憶にとどまることを願うばかりです。

生徒たちから寄せられた感想の一部を紹介します。

- ・言語聴覚士の仕事は、言語障害の方を支援するだけだと思っていましたが、摂食嚥下障害の方にも幅広く支援していることを聞き、素晴らしい仕事だと思いました。

- ・私は言語聴覚士という職業を聞いたことがありませんでした。言語障害や音声障害などの方々を支えることは素晴らしいことだと思い、興味を持ちました。

- ・他人の喜びを自分の喜びのように感じられるのは、素晴らしいと思いました。

△▼△ 待望の養成校開設(予定)のお知らせ △▼△

平成 28 年 4 月には、成田市の京成本線・公津の杜駅前に「国際医療福祉大学 成田保健医療学部（仮称）/ 理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科・医学検査学科」「成田看護学部（仮称）/ 看護学科」の開設が計画されています。現在のところ言語聴覚学科は 40 名定員の予定で、開設されれば千葉県では唯一の言語聴覚士養成校となります。

職能部の担う業務としては、言語聴覚士を魅力ある仕事・職場にできるような活動をしていきたいと考えております。



三三三 きこえに関するひとくちコラム 三三三

・・・聴覚障害委員会・・・

外耳・中耳の奇形を合併する疾患

外耳・中耳に奇形を合併する疾患は、小耳症、外耳道閉鎖などがよく知られています。その中でも小耳症、外耳道閉鎖に伴う表在奇形として代表的な疾患、Treacher Collins症候群について今回は説明します。

【病因】常染色体優性遺伝疾患です。しかし、60%は新たな突然変異によって生じたものです。

【症状】両側の眼裂斜位、頬骨低形成、下顎低形成、下眼瞼部分欠損、耳介低位、小耳症、外耳道閉鎖、中耳奇形、外鼻の奇形、高位口蓋、咬合不全。顔面の奇形は特有の顔貌を呈し、fish-like appearanceまたはbird-like appearanceと呼ばれています。

【聴力】外耳・中耳の奇形であるため、難聴は伝音難聴であり40dB～60dB程度の難聴をきたします。早期に発見し、早期の補聴器装用を開始すれば、言語発達の遅れや構音障害を防ぐことができます。

外耳・中耳に奇形を合併する疾患では、その他にも、Apert症候群、Crouzon病、耳—口蓋—指症候群、Klippel-Feil症候群、goldenher症候群などがあります。いずれの疾患も、耳、顔面、口腔に奇形を持つ疾患です。特徴的な顔面や耳の変形などが見られた場合は、難聴も疑っていく必要があります。

施設紹介

八千代リハビリテーション病院・・・・・・・・・・ S T 波佐 乃理子

当院は平成 18 年に開設されました。回復期病棟に特化した 83 床の病院で、フォローアップ外来も行なっています。現在、リハビリスタッフは PT33 名、OT22 名、ST8 名です。住宅復帰率は 93.2%（平成 25 年度）と自宅復帰・復職を目標に日々リハビリを行なっています。

ST 処方数は 50～55 名であり、失語症を含む高次脳機能障害、構音障害、嚥下障害の訓練を行っています。患者様の年齢層は若年層から高齢者層までですが、平均年齢 68.7 歳と比較的若く、復職を希望される方も多くいます。中でも高次脳機能障害の方が多く、機能訓練だけでなく、復職に向けた訓練を多く取り入れています。3 年前から外来リハも開始し、失語症の患者様など経過を追って訓練しています。一方嚥下障害については、栄養士・看護師と協力し、病棟での生活動作や食事介助・食形態の変更など、より早い自立に向けた訓練を進めています。

また、患者様のサービス向上のため、勉強会・症例検討会を多く行なっています。リハ科は明るく優しいスタッフが多く、職種に関係なく仲が良い職場です。情報交換や相談も行ないやすい雰囲気です。

今後も質の良いリハビリを提供出来るよう、チーム一丸となって努力していききたいと思います。

〒276-0015 千葉県八千代市米本 1808 番地 TEL:047-488-1555

東京湾岸リハビリテーション病院・・・・・・・・・・ S T 徳山 明子

当院は 2007 年に 160 床を有する回復期リハビリテーション病院として習志野市谷津に開院し、365 日リハビリテーションを提供しています。スタッフは、リハ医 8 名、リハスタッフ（理学療法士 46 名、作業療法士 39 名、言語聴覚士 10 名）、医療相談員、看護師、介護福祉士などで構成されています。対象疾患は脳血管疾患、整形外科疾患、廃用症候群であり、言語聴覚療法では失語症、注意障害、記憶障害、遂行機能障害などの高次脳機能障害、運動障害性構音障害、摂食・嚥下障害に対してリハビリテーションを提供しています。また、併設されている谷津居宅サービスセンターには、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が配置されており、回復期から生活期までリハビリテーションを提供しています。

当院の言語聴覚療法の対象者は 30～50 歳代の働き盛りの患者様が多いことが特徴の一つです。そのため、言語聴覚士が中心となって高次脳機能障害に対する評価・訓練・就労までをマネジメントしています。また、摂食・嚥下障害に対する新たな取り組みとして、院内の何処でも VF・VE 画像を閲覧できるムービー・ネットワーク・システムを今年度より導入しました。詳細で分かりやすい説明が可能となり、インフォームドコンセント、チームカンファレンス、NS・P 委員会（当院では「栄養・褥瘡サポートチーム」としています）での情報共有や、院内勉強会に活用しています。

〒275-0026 千葉県習志野市谷津 4-1-1 TEL : 047-453-9000

臨床こぼれ話



「失語症者がもつやさしさと底力に、驚きの連続」

上智大学 言語聴覚研究センター 吉畑 博代



STとしての仕事を始めて約30年になります。振り返ると、失語症者がもつやさしさや思い、奥底に秘めたコミュニケーション能力に、いつも励まされ教えられてきました。

最初の勤務先で、表出がほとんどなく、単語レベルの呼称も困難で、精神活動の低下もある重度失語症の女性Aさんへの言語訓練を行っていた時のことです。私は、その日朝から具合が悪く、Aさんの反応潜時も長かったので、反応を待っているときに、「ちょっとめまいがするな」などと思い、下を向いてしまいました。たぶんうつむいている時間が長かったのでしょう。普段ほとんど発話がないAさんから急に「あんた、どうしたん？」と言われました（かなり前のことなので、言葉そのものは定かではありませんが）。私はビックリし、目が覚めたような思いで、めまいがどこかに飛んでいってしまいました。私の不調を感じ、投げかけられた質問は、訓練時や普段のコミュニケーションからは考えられない言葉でした。人を気遣うAさんの優しさに、頭を殴られたような思いでした。このような失敗からの学びは多々あります。

次の勤務先での出来事です。スタッフや患者さんともに仲がよい病院でした。ある時、リハ時間が終了しリハビリ室を消灯しようとした頃に、身体の麻痺がない、全失語の男性Bさんがリハビリ室に現れました。私と担当OTとで、どうしたのか尋ねましたが、Bさんの用件がうまく理解できず、雑談なども少し行い始めました。Bさんは必死で何かを伝えるのですが、有意味語にはならずジェスチャーもはっきりしませんでした。そのような時、突然にBさんがズボンを下ろし始めました。私とOTは「トイレ」と理解し、急いでトイレに行ってもらいながら、平謝りに謝りました。ズボンを脱ぐという動作・ジェスチャーを行って、意図を伝えるというBさんの非言語コミュニケーション能力に、申しわけなさを感じながらも、すばらしさを実感しました（本当に、申しわけありませんでした）。

前職場でのクリニックのケースの方々にも、様々なことを教えてもらいました。地域密着型のクリニックなので、15年以上の長期にわたり関わってきたケースも何人かいます。その中のお一人、交通事故で失語症と高次脳機能障害になった男性Cさんは、訓練開始当初は、わざと居眠りをしたり反抗的な態度を取ったりしていました。ですが徐々に落ち着き、最近では、お年を召してきたご両親の健康を心配する発言を行ったりします。Cさんは月1回の「絵画教室」にも参加し、OT訓練では、その絵画教室で描いた絵を用いたカレンダー作りなどを行っています。例年、学園祭でCさんは作成したカレンダーを自ら1000円で販売し、私も購入していました。ですが、今年はなんと「プレゼントじゃけ～」と言われました。訓練開始頃の様子を私も担当OTも知っているだけに驚き、OTも「社会性ある態度に感心した」と話していました。日常生活の中でCさんが身につけた、徐々ながら、でもとても大きな変化です。

私は、最近はST養成の仕事が主で、ケースに関わる機会が少ないのですが、そのような中でも、それぞれの方がもつ底力のすばらしさを感じます。皆様方も、日々の仕事・臨床の中で、迷いや悩みが生じることがあると思いますが、ケースお一人お一人、個性や症状、訴えが異なります。その方に合った工夫や支援を行うために、ケースの声をしっかり聴き、小さな変化やその良さを見逃さないことが大切だと思います。



元小学校ことばの教室担当
宮本紀子

☆はじめに☆

すでに退職していますが、私が勤務していたのは木更津市、君津市、富津市のことばの教室で、校内には知的障害学級や情緒障害学級が備わっているので、本来の言語障害の子が多く、千葉県内の中ではわりあい理想的なことばの教室だったと思います。

☆子ども全体をみる☆

構音障害や吃音など speech の問題であっても、言語発達の遅れといわれる language の問題であっても、子どもの生活全体をよくみて指導方針を決めます。それには付き添ってくる親からの情報やクラス担任からの情報が大切なので、人とのつながりをうまくとるようにします。学校では1単位45分ごとの日課で指導するので、時間をうまくやりくりして親と情報交換を行いました。クラス担任とは子どものノートにメモを挟むなどして連絡を取り合いました。

一番はやはり自分の目（勘）です。家庭に問題があると予想したら母親と面談します。それで十分でない時は、父親や養育をしている祖母・叔母などと面談します。本人が集団の中で困っていると予想したら学級担任と話し合います。他校から通級している場合も学級担任に電話などで状況をたずねます。この勘は大抵の場合当たっていて、オモテに表れた言語障害には、ウラの問題が大きく影響していました。ウラの問題を解決するとオモテの問題も急速に改善が進むものです。

☆本音を引き出す話し合い☆

指導前の初めての面談では、なぜことばの指導が必要か理解できていない親が多いものです。指導を希望して申し込んでいるものの、クラス担任に通級しなさいと言われたので…という具合です。初回は、構音の誤り状態をわかりやすく説明したり、希望で受ける指導であって強制ではない旨を説明したり、他の学習時間に差障りのない時間を親の希望に合わせて調整したり、“あなたのお子さんにはほかの子以上の手厚い学習が準備されていますよ”といった内容を温かい態度で話します。初回は説明が多いので、家庭状況や生育歴などの聞き取りは一通りの事務的なもので終わらせるようにしていました。でも、親が自分から育児に苦労してきたことを話したら、「いろいろ心配だったのですね」

「お母さん、がんばりましたね」と、次回にはもっと心を開いてくれるように相槌を打ちます。

第2回目に会うときは、“あなたが来るのを楽しみに待っていました”という態度で迎えます。笑顔で明るい声で話します。そして、子どもの気にかかる状態や複雑な家庭の中まで聞きます。ときには無駄話と思えるおしゃべりも必要です。子どもの生活を知るには、母親がどんな仕事内容でどのくらい家を空けているのか、どんな趣味や嗜好があって子どもと何を共有できるのか、休日は親子でどんな過ごし方をしているのか、近い親戚に子育てに厳しい人がいるか等々、母親から自然に話してくれるようにもっていきます。もちろんこちら心を開かなくては話してもらえません。

若い時は同じ子育て仲間として、だいたい年配になってからは母親のお母さん代わりとして、自然体の私をさらけ出して親たちと付き合ってきました。私の関わった多くの母親は本音を出して子育ての相談を私にしてきたように思います。

=事例1=

どの音がどの音に置換というわけではなく、全体的に不明瞭な構音のA君1年生は、イスに腰かけてい

ても姿勢がぐにやりと曲がっていました。集会で並ぶとよけいにグニャグニャが目立ちました。

指導時間とは別枠で母親と話し合いを持ちました。父母ともに公務員で朝早くから勤めに出て、過保護な祖母が面倒を見ているので外遊びはしていないこと、じっとしていることが好きな子で家ではテレビゲームをソファに寄り掛かって何時間もしていること、父をスポーツマンに育てたのに孫に運動をさせていない祖母、等々 いろいろな事情がわかりました。

また、父親も過保護にわがままに育てていて、休日に一人で釣りに出かけるなど、子どもと外遊びをすることもなく父親の役割は果たしていないということでした。A君の構音の問題は体幹をはじめ、全身の運動機能の未熟にあると考えていたので、父親に運動をいっしょにやってもらいたいと話しました。姑には子どもの面倒をみてもらって感謝していることがよくわかりましたが、体の発達ということに関して育ててもらっていないことを気づいていました。

この母親は、半年過ぎたころ勤めを辞めました。「子どもの将来を考えて今が育てるとき」と考えられたのです。ことばの教室でも構音学習の終わったときに、背筋や腹筋の体操をして家で復習できるよう図りました。2年生でことばの教室は終了しましたが、集会などで少しの間しっかりと立っていられるようになったのは4年生くらいだったと思います。

=事例2=

側音化構音の1年生B君は、周りに気を使う表情の乏しいおとなしい子でした。自営業で共働きの家庭、子どもっぽいだいがわがままな兄、気の利いた言動の妹、その間に挟まれた遠慮がちな本人、側音化構音でなかったら吃音になっていたかなと思うくらいプレッシャーのある生活です。

舌の緊張を解くプログラムにだいぶ時間がかかって単音が出せるようになり、単音節、連続音……と進めたのですが、2年生の2学期になったころ、なかなかその先に進めなくなってしまいました。構音障害の子にはよくあることですが、夏休み明けに戻ってしまうことがあります。夏休みにどんなことがあったのか知る必要がありました。

指導時間とは別に面談し、今まで把握できていなかった家庭事情がわかりました。自営業のお店のドンは祖母だったのです。祖父は祖母の婿で、父親は親戚からの養子、そこに嫁に来た母親という構成がわかりました。兄は威勢がいいので祖母のお気に入り、気の利く妹は自己主張もしっかりできる、祖父も父も祖母に遠慮がち、母はお手伝いさん並みという状況です。緊張の強い舌はこれで作られてしまったのだと思いました。優しいB君は母の気持ちを一番汲み取っているのではないかと思い、それを口に出してしまいました。前からそれが分かっていたのでしょう、母親は涙を見せました。

12月になってB君の構音練習の進み具合が一段とよくなってきたので母親に話したところ、山の深い地域のお店はそのままに、にぎやかな地域に支店を出したということでした。祖父母と別居し、母親、父親のほっとした気持ちを映してB君も変化してきたのだと思います。その3月にB君はことばの教室を終了しました。

☆おわりに☆

言語聴覚士の方々に指導の内容を説明することは要らないと思い、また、話しの聴き方はカウンセラーの手法で行っているの、事例の周辺のことについて書かせていただきました。ことばの教室に通級している子を特別支援学級の方が適正だと勧めることもあります。子どもを伸ばすにはどうするかという視点で親と共に考えていきます。こじれないように配慮し、子どもが幸せになるように祈って仕事をしてきました。現在、その親たちの会の事務局をしています。言語聴覚士の方々のご協力をお願いいたします。

◇ 各委員会・作業部会から ◇

◎◎◎高次脳機能障害委員会◎◎◎

高次脳機能障害委員会 特別講座 「失語症の源流を訪ねて」

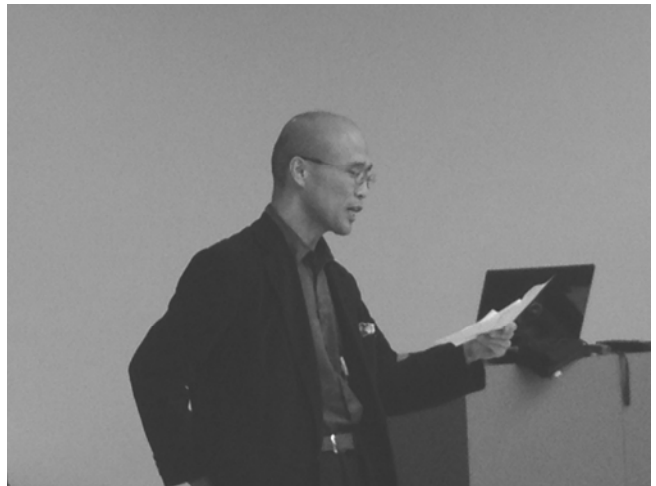
平成26年10月25日、幕張テクノガーデンにて失語症の研修会を開催しました。昨年に引き続き講師に小嶋知幸先生（武蔵野大学大学院人間社会研究科、市川高次脳機能障害相談室）をお迎えし、ご講義頂きました。当日は県内外から82名と大変多くの方がご参加下さいました。

昨年は言語情報処理モデルを元にした評価やアプローチの方法についてのご講義でしたが、今回は、いま一度古典に回帰し、失語症臨床の基礎を固めることを目的としたご講義となりました。

はじめに古典分類の礎となったブローカ、ウェルニッケ、リヒトハイムらによる言語モデルの歴史について示されました。続いて（新）古典分類の8タイプ（ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語、健忘失語、超皮質性運動失語、超皮質性感覚失語、混合型超皮質性失語、全失語）について、歴史的背景を踏まえてそれぞれの考え方を解説していただきました。古典分類というと、STになるための基礎の基礎ではありますが、実際の臨床ではそれらに当てはめられない症例を多く経験します。また、近年、失語症臨床においては様々な知見が示されてきており、新しい知識の整理がつかないまま臨床に携わっているSTも少なくないのではないのでしょうか。そのため自身の評価に信頼性が持てないことや、サマリー作成などで苦慮することもあると思います。今回多くの文献を元にした根拠あるご講義を拝聴して、古典分類の正しい知識があるからこそ、臨床で分類できないような言語症状の矛盾に気づくことができ、且つ評価や訓練プログラム立案の一助となることを実感しました。アンケート結果は、「分かりやすい」や「役に立った」とのご意見が大半で、特に経験年数10年以上のSTからの反響が大きかった一方、新人STからは昨年実施したような評価やアプローチ方法の研修を求める意見が多くみられました。その他、次のようなご意見をいただきました。

アンケートの自由記載より：

新たに知ったことや衝撃を受けたことが多くあり、非常に興味深い講義でした。（2年目）／古典分類で迷うことが多くありまし



たが、頭の中で整理され、考えやすくなりました。(2年目)／自分の知識の土台がしっかりとしていなかったのも、基礎からもう一度勉強し直したいと思います。(2年目)／世間の症例報告などでは“非定形型の失語”や“混合型失語”など分類が曖昧にされているものが多いと感じていました。古典分類をする意味や、そのために歴史を学ぶ必要性を強く感じました。(4年目)／原点を学び直す大切さを感じました。学生指導をする中でのヒントもたくさんあり、有意義な時間でした。(5年目)／超皮質性失語の「超」については、意味がわからずにいましたが、歴史的経緯と和訳の問題を知ることができ、納得しました。(5年目)／自分の仕事のよりどころを見つめ直すよい機会となりました。目新しいわかりやすい技法に安易に飛びつくのではなく、自分で調べ、考えることをしていこうと思います。(10年目)／難解なお話を小嶋先生のわかりやすい言葉と明確な解釈の尺度で教えて下さり、大変スッキリとしました。症状を解釈するにあたり、迷っていた部分がハッキリとしました。また「グレーでよい部分・ダメな部分」を明確にさせていただきましたので、実際の臨床での診断で助かります。(12年目)／このような機会がなければ、古典に回帰し、学ぼうと思えるきっかけは得られなかったと思い、感謝申し上げます。新しい研究に関心が向きがちですが、偉大な先生方のご著書で今後学んでいきたいと思う契機となりました。(13年目)

(治田 寛之)

◎◎◎介護保険委員会◎◎◎

今年度も昨年度に引き続き、①介護保険領域の言語聴覚士の把握と現状を知る、
②これらの情報を言語聴覚士および関係スタッフが連携・情報共有に活用できるようにする、ことを目的とした継続調査を実施しております。

そこで、今回のアンケート結果の更新として「言語聴覚士がいる介護老人保健施設一覧」を県士会ホームページに掲載予定です(12月)。

どうぞ、この情報を医療・介護保険領域に勤務する言語聴覚士、関連職種の皆様でご活用ください。

(木村 智希)

◇ 事務局から ◇ 年会費納入のお願い

*当会の年会費は前納制となっております。

正会員	3500円	準会員	3000円
賛助会員 1口5000円(個人1口以上、団体2口以上でお願いします)			

*お支払期限は以下のとおりです。

平成27年度分：平成27年3月31日

平成26年度分：平成26年3月31日 (未納者94名)

平成25年度分：平成25年3月31日 (未納者38名)

未納分について

＊本年度は未納ゼロをめざします。平成25年度分・平成26年度分の年会費のお支払いがお済みでない場合、期日を過ぎておりますので、2年分を合計した金額にてお早めにお支払いください。

本会の規則により、**2年以上会費未納の場合は退会**とみなされますのでご注意ください。

なお、退会後も未納分は徴収させていただきます。(例：正会員の場合：3500円×2＝7000円)

◇◇お支払い方法◇◇

1) ゆうちょ銀行および他の金融機関からのお振込み

◇ゆうちょ銀行からのお振込の場合

払込取扱票に氏名、住所、金額をご記入の上で下記宛にお振込ください

(記号番号) 00120-6-39932

(加入者名) 一般社団法人千葉県言語聴覚士会

◇ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込の場合

(銀行名) ゆうちょ銀行 (金融機関コード) 9900 (店番) 019

(店名) 〇一九 (ゼロイチキュー店)

(預金種目) 当座 (口座番号) 0039932

(受取人名) イッパンシャダンハウジン チバケンゲンゴチョウカクシカイ

2) ゆうちょ銀行口座からの自動引落とし

お手続きについては、当会ホームページをご覧ください。

尚、今お手続きをされた場合、平成27年3月1日より自動引落としが開始されます。

自動引落日の変更について

＊ゆうちょ銀行口座の自動引落としをご利用の方は、次回(平成27年3月)から引落日が変わります。

(旧) 3月15日 → (新) 3月1日

《年会費に関するお問合せ先》

船橋二和病院 リハビリテーション科 鈴木 直哉 047-448-7111 (代)

1. 入会のお誘い

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げておりますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらしたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

2. 迷子が増えています ～ 変更届についてのお願い ～

本会からの書類の多くはメール便にて発送していますが、最近、迷子になって戻ってくる発送物が増えています。お手数ですが、氏名、住所や勤務先などに変更があるときは、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。変更届の様式は会のホームページよりダウンロードすることができます。ご記入の上、事務所へ郵送やFAXにてお届けください。また、変更届に限ってメールによる受付を試行中です。会からの情報がみなさまのお手元に無事届きますよう、ご協力お願いいたします。

3. 新入会員のお知らせ (敬称略) 会員数：正会員 376 名・準会員 24 名・賛助会員: 7 団体

(平成 26 年 10 月 26 日 理事会承認分まで)

…正会員…

里中 康真(高根病院)

近藤 真莉子(亀田メディカルセンター)

平根 利恵(千葉・柏たなか病院)

石澤 朋子(東京湾岸リハビリテーション病院)

佐山 良子(流山中央病院)

内田 静香(永寿総合病院)

大森 恵子(千葉東病院)

早川 薫(のぞみ発達クリニック)

青島 秀和(千葉西総合病院)

以上

4. 規則改正のご報告

本会役員選挙に向けて、「理事、監事に関する規則」を下記のように改正し、理事の定数を 10 名に増員することが、9 月 28 日の理事会で決議されましたので、ご報告いたします。

あわせて、「選挙に関する規則」も一部改正いたしました。

<理事、監事に関する規則>

	旧	新
第 2 条	(定数) 理事は 8 名、監事は 2 名とする。	理事は 10 名、監事は 2 名とする。
附則の 3		本規則は、平成 26 年 9 月 28 日から施行する。

<選挙に関する規則>

	旧	新
第 8 条の 2	(投票) 理事は 8 名以内、監事は 2 名以内の連記投票とする。	理事は 10 名以内、監事は 2 名以内の連記投票とする。
附則の 3		本規則は、平成 26 年 11 月 24 日から施行する。

◇ 理事会・委員会等議事録 ◇

◆ 平成 26 年度 理事会

《第 4 回》日時：2014 年 7 月 13 日（日）13 時 00 分～17 時 00 分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：岩本、木村、鈴木、古川、宮下、渡邊（理事 6 名）、宇野（監事）、宮阪（書記）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・ニュース No. 45 について ・局員・委員名簿について ・後援依頼について ・ホームページ情報掲載依頼 ・高次脳機能障害委員会の研修会について ・年会費の納入について ・介護保険委員会平成 26 年度アンケート調査について ・聴覚障害委員会から ・変更届の改訂について ・生涯学習プログラム案内について ・医療功労賞候補者の推薦について 2. 報告事項：・小児言語発達障害委員会より ・総会時の昼食代について ・学術委員会から ・「職業を語る会」の報告について ・千葉聾学校への ST 派遣について ・平成 26 年度春期都道府県協議会について ・回覧郵便物

《第 5 回》日時：2014 年 8 月 30 日（土）13 時 10 分～16 時 30 分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、岩本、酒井、鈴木、古川、渡邊（途中退出）（理事 6 名）、山本（監事）、宮阪（書記）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・代議員選挙について ・後援依頼について ・三士会合同役員会について ・生涯学習全国研修会について ・医療功労賞について ・報酬改定アンケート調査の協力施設について ・千葉県耳鼻咽喉科医会講演会のHP掲載について ・認知症専門職研修会について ・高次脳機能障害委員会研修会について

2. 報告事項：・船橋在宅医療ひまわりネットワーク会議報告

《第6回》日時：2014年9月28日（日）13時00分～15時00分 場所：黒砂公民館 和室

出席者：吉田、岩本、酒井、鈴木、古川（理事5名）、宇野（監事）、原田（書記）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・代議員選挙について ・平成26年度秋期都道府県県士会協議会について ・今後のリハ公開講座の方向性について ・全国研修会について ・「理事、監事に関する規則」について ・No.46. 県士会ニュースについて ・第3回研修会案内状について ・摂食嚥下委員会研修会について ・高次脳機能障害委員会研修会について ・認知症専門職研修について ・小児言語領域のアンケート調査について

2. 報告事項：・三士会合同役員会報告 ・第5次障害者計画について

《第7回》日時：2014年10月26日（日）13時00分～15時40分 場所：黒砂公民館 和室

出席者：吉田、古川、渡邊、酒井、木村、宮下、鈴木、岩本（理事8名）、山本（監事）、井上（書記）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・代議員選挙について ・No.46 県士会ニュースについて ・職場復帰に関するアンケートについて ・役員選挙について ・都道府県士会協議会の話題について ・介護保険委員会からのお知らせについて ・学術局第2回研修会アンケート集計結果について ・学術局第3回研修会案内状について ・入会申込書・変更届について ・千葉県介護保険団体協議会研修会及び幹事会について ・後援依頼について

2. 報告事項：・第5次障害者計画について ・生涯学習プログラム講座の進捗状況 ・

リハ公開講座について ・高次脳機能障害委員会、認知症専門職研修実行委員会より

◆ 平成26年度 学術局

《第2回》日時：2014年8月3日（日）13時30分～14時30分 場所：プラザ菜の花

出席者：柄澤、神作、木村佐、木村知、酒井、竹中

・学術局の仕事内容と役割分担 ・平成26年度第2回研修会スケジュールと役割分担 ・平成26年度第3回研修会についての検討 ・その他

《第3回》日時：2014年9月8日（日）17時00分～17時30分 場所：東京女子医科大学八千代医療センター

出席者：荒木、柄澤、神作、木村佐、木村知、酒井、佐藤、竹中

・平成26年度第2回研修会反省 ・平成26年度第3回研修会についての検討 ・平成27年度第1回研修会についての検討 ・その他

◆ 平成26年度 渉外部 船橋在宅医療ひまわりネットワーク

《第2回役員会》日時：2014年9月12日（金）出席者：山本

◆ 平成26年度 渉外部 生活期リハビリテーション合同研修実行委員会

《第4回》日時：2014年7月8日（火）出席者：小野、勝又、吉田

《第5回》日時：2014年8月6日（水）出席者：小野、勝又、吉田

《第6回》日時：2014年9月22日（月）出席者：小野、勝又、吉田

《第7回》日時：2014年10月21日（火）出席者：小野、勝又、吉田

◆ 平成26年度 第8回リハビリテーション公開講座実行委員会

《第3回》日時：2014年7月22日（火）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作 千葉県理学療法士会5名 千葉県作業療法士会1名

・実施要項 ・後援申請 ・ちらし ・内容、テーマ ・予算

《第4回》日時：2014年8月20日（水）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作、倉田 千葉県理学療法士会5名 千葉県作業療法士会3名

・ちらし ・予算 ・情報保障 ・当日スケジュール ・役割分担 ・当日スケジュール ・広報

《第5回》日時：2014年9月24日（水）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作、倉田 千葉県理学療法士会4名 千葉県作業療法士会3名

・周知方法 ・ちらし ・配布資料 ・機材 ・来年度について

《第6回》日時：2014年10月22日（水）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作、倉田 千葉県理学療法士会5名 千葉県作業療法士会3名

・周知方法 ・当日ボランティア ・当日スケジュール ・来年度について

◆ 平成26年度 小児言語障害委員会

《第2回》日時：2014年7月26日（日）10時00分～12時15分 場所：千葉リハビリテーションセンター

出席者：藤田、金子、戸田山、廣瀬、渡邊

情報交換会開催事項の検討、「小児に関わる言語聴覚士・施設等の情報」調査の検討、報告事項、今後の予定

◆ 平成26年度 摂食嚥下障害委員会

《第1回》日時：2014年7月6日（日）10時00分～11時00分 場所：順天堂大学医学部附属浦安病院

出席者：酒井、鈴木、高橋、田中、長良、林

・平成26年度研修会についての検討 ・嚥下外来実施施設一覧の改訂についての検討 ・その他

《第2回》日時：2014年10月6日（日）10時00分～11時00分 場所：順天堂大学医学部附属浦安病院

出席者：酒井、相楽、高橋、田中、長良

・平成26年度研修会についての検討 ・嚥下外来実施施設一覧の改訂についての検討 ・次年度活動計画についての検討 ・その他

◆ 平成26年度 聴覚障害委員会

《第1回》日時：2014年6月27日（金）19時00分～21時00分 場所：プラザ菜の花 サークル室

出席者：常田、高橋、黒谷、大壺、宮下

・研修会について ・今年度の役割分担について ・コラムのテーマについて

《第2回》日時：2014年7月13日（日）10時00分～12時00分 場所：プラザ菜の花 サークル室

出席者：常田、高橋、黒谷、大壺、宮下

・研修会について（内容、講師、開催案内）

◆ 平成26年度 生涯学習プログラム作業部会

《第1回》日時：2014年6月15日（日）10時00分～11時05分 会場：千葉市療育センター 会議室

出席者：斉藤（公）、西本、長尾、鈴木、佐藤、古川（理事）

・今年度の案内、開催要項の検討 ・県士会の開催要項について ・申し込みについて ・役割分担について ・メーリングリストについて

《第2回》日時：2014年10月26日（日）10時00分～10時55分 会場：千葉市療育センター 第3会議室

出席者：斉藤（公）、西本、長尾、鈴木、福田、佐藤、古川（理事）

・現在までの基礎講座、専門講座申込み&会計状況 ・当日までの作業確認 ・当日の役割分担

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）

新 発 売





とろみ調整食品

トロメリン® V

“ダマ”になりにくく使いやすい！

様々な液状食品に同じ使用量でほぼ同等のとろみがつきます。



-  **Point** 溶けやすく、ダマになりにくいので簡単にとろみをつけられます。
-  **Point** 少量で十分なとろみがつき、すみやかに安定します。
-  **Point** 様々な液状食品に、同じ使用量でほぼ同等のとろみがつきます。
-  **Point** 透明感のあるベタつきの少ないとろみがつき、食品の味を変えません。

●賞味期間／製造後2年間



販売者
株式会社 三和化学研究所
本社/名古屋市東区東外堀町35番地〒461-8631
TEL (052) 951-8130 FAX (052) 950-1861
●ホームページ <http://www.skk-net.com/>

言語訓練用絵カード **ActCard**® (アクトカード) (ActVoice® 対応)

失語症者への言語訓練を目的とした絵カードです。写実的なカラーイラストが主体となり、高齢者が日常会話で良く使用する語彙の訓練から、幼児・学童の言語訓練にも使用可能です。



好評発売中! 75mm×125mmサイズ 各300枚

- 第1巻 名詞絵カード
- 第2巻 名詞絵カード
- 第3巻 動詞絵カード
- 第4巻 名詞絵カード …… 各 19,440円
- 文字版1巻 (アクトカード第1巻に対応) …… 15,120円



**ActCardシリーズ
今後の発売予定**

●連続絵(2コマ)

発売時期、価格等は決まり次第ホームページにてご案内します。

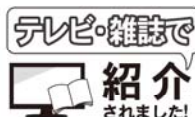
▶連続絵(2コマ)イメージ画像



ActVoice® (アクトボイス) 改良版

現行のActVoiceを全面的に見直し、機能的にシンプルにしました。操作性の向上と低価格化を実現した改良版を開発中です。詳細が決まり次第ホームページにてご案内します。

※デザインは変更になることがあります。



もの忘れが気になる方へ

新記憶サポート帳

著：安田 清 A4変形版 1,296円

毎日書くことで、困っていた予定のやり残しや、約束を忘れることが減ります。
「物忘れ外来」のリハビリを担当する言語聴覚士が、長年の臨床から開発しました。

3か月分
記入可能

構音(発音)指導のためのイラスト集

企画・監修：加藤正子 竹下圭子 B5判5冊セット 全232頁 7,776円

「キャリオーバーのための構音(発音)絵カード」がイラスト集になりました! 構音(発音)指導にすぐに役立ちます!

構音指導では、産生可能になった音を様々な単語で練習することが重要です。親しみやすく、絵を見て自発することが容易な日常語を、日本語に含まれるすべての音別に配置しています。子どもが思わず呼称したくなるようなイラストを見ながら、子どもとの構音指導を楽しく進めて頂けます。

- 特長1** 細かい構音指導に対応! 語頭・語末・語中の3分類に単語を配置!
- 特長2** 子どもに合わせた絵の選択や提示順番を自由に変更可能!
- 特長3** 持ち運びに便利! 音別に5分冊!



キャリオーバーのための構音(発音)絵カード

企画・監修：加藤正子 竹下圭子 24,840円
絵カード(A6サイズ) 523枚/CD-ROM/絵カードリスト/
手引書/保管ケース

目で見える構音障害

書籍+DVD 4,320円

著：藤原百合(聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部言語聴覚学専攻 教授)
山本一郎(山本歯科医院 矯正歯科クリニック 院長)

発行：EPG 研究会

既刊のDVD「目で見える日本語音の産生」では構音運動を内視鏡やエレクトロパトグラフィを用いて視覚化し、今回はその続編として書籍とDVDを制作しました。視覚的な情報を通して「正常構音」と「特異な構音操作」について分かり易く解説しています。これから言語聴覚士をめざす学生や言語聴覚士・ことばの教室担当教諭のために役立つ内容となっています。



自閉症の僕が跳びはねる理由

～会話のできない中学生がつづる内なる心～

著：東田直樹

A5判 176頁 1,728円

全26カ国で翻訳出版され国外でも大反響! 「どうして目を見て話さないのですか?」「手のひらをひらひらさせるのはなぜですか?」など自閉症の行動や思いについて50以上の質問に答えています。

NHK総合テレビにて東田直樹特集「君が僕の息子について教えてくれたこと」で紹介されました。



<http://escor.co.jp>

TEL 0438-30-3090 FAX 0438-30-3091

〒292-0825 千葉県木更津市畑沢 2-36-3

●上記の商品はホームページから全品送料無料でお求めいただけます。●価格は全て消費税込みです。

「健康な毎日」は **口腔ケア** から。

お口の中の「3つのケア」 **保湿** **清掃** **リハビリ** をトータルサポート

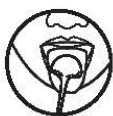


医療現場から生まれた口腔ケアシリーズ

保湿

清掃

リハビリ



シリーズ 口腔ケア製品ラインナップ



口腔ケアジェル



口腔ケアスポンジ



吸引歯ブラシ／吸引スポンジ



フレッシュメイトK



口腔ケア綿棒



口腔ケアガーゼ

川本産業株式会社

※製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

●お客様相談窓口 ☎06-6943-8956 (10:00～17:00 月～金ただし祝祭日を除く)
●商品に関するお問い合わせ・試供品のご要望は / マーケティング本部 ☎06-6943-8941
<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp>



補聴器のご相談は安心できる

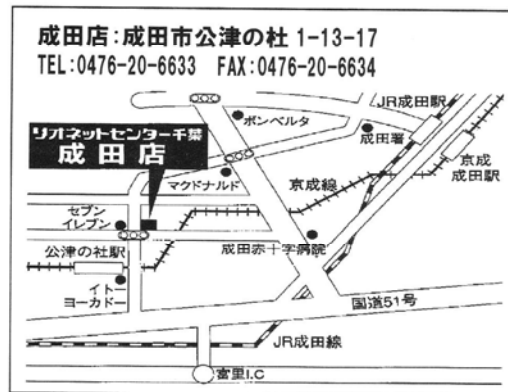
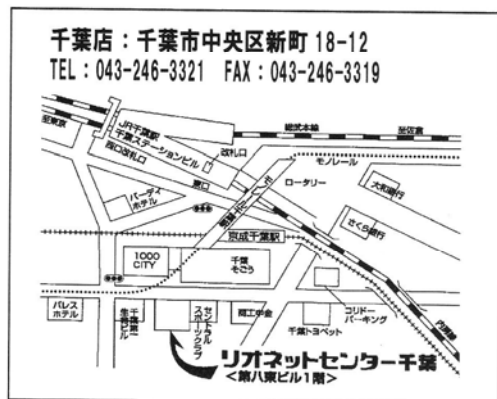
認定補聴器専門店で!!

認定補聴器専門店は「認定補聴器技能者」が在籍し、補聴器をお客様の耳に合わせるための設備機器が整い「補聴器の適正供給」の運用がされ「公益財団法人テクノエイド協会」が認定したお店です。つまり経験豊かで専門的な知識と技能を持ったスタッフが、様々な機器を使い、一人ひとりのお客様の聞こえの状態に合った最適な補聴器をご提供します。



認定補聴器専門店

リオネットセンター 千葉



発行所: 一般社団法人 千葉県言語聴覚士会

発行人: 吉田浩滋

編集人: 編集部 古川大輔

事務局: 〒263-0042 千葉市稲毛区黒砂2-6-15 メゾン K102

FAX 043-243-2524

E-mail chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ: <http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード: affordance

印刷: 社会就労センター はばたき職業センター